

かつてからこの川は街道のように、森・町・海、人々の生活を繋いできた。その文化が生き続ける流域。



吉田川沿いの山



鮎釣り客が集まる長良川



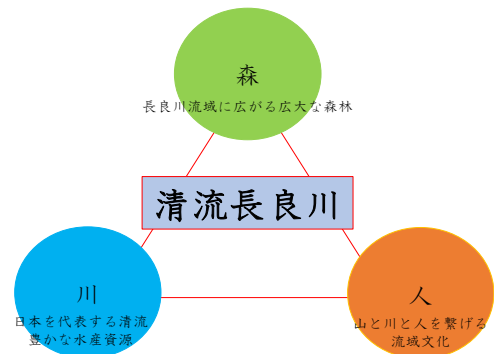
郡上で唯一の「郡上魚籠」職人



「長良川〜長き良き川〜」流域の「森・川・人」にスポットライトを当てた研究 森林文化アカデミーでの二年間の学び、自身の取り組み・・・ この流域に住む一人として、「清流長良川の魅力を伝えたい」という願いからこの課題研究が始まった。

森
長良川流域に広がる広大な森林。全国二位の森林率を誇る。
川
日本を代表する清流。豊かな水産資源、流域文化は「世界農業遺産」に認定された。
人
山と川と人を繋ぐ流域文化。人々は流域の恵みで生計を立ててきた。

長良川
・全長166km、流域面積1986km²
・流域には約86万人の人々が生活する
・私たちの学び舎「森林文化アカデミー」も長良川流域にある
岐阜県の森林
・森林率は81%、長良川流域の森林率は76%
・人工林率は45%、天然林率は50%（民有林）
郡上市の森林
・森林率は89%
・人工林率は55%、天然林率は43%（民有林）



私が取り組んだこと
森
・郡上漁業協同組合主催「源流の森育成事業」への参加（H30）
・竹細工「郡上魚籠」研究・職人への取材（H30）
・アカデミー学習（里山資源の利用、木育など）（H29-H30）
川
・郡上漁業協同組合主催「産卵場造成」への参加（H29）
人
・郡上釣り後継者として郡上漁協より表彰（H29）
・地元・郡上市での木育（アカデミー実習）（H30）

長良川の流域文化〜森・川・人の繋がり〜をテーマに調査、体験した。この川は1本の街道のように、森・町・海、人々の生活を繋いできた歴史がある。私が取り組んだことの中から2つ将来、地元にとんねんかんに関わりたいか、考えた。
・「郡上漁業協同組合 源流の森育成事業」の発展
・「木育」ならぬ「地域育」で子供たちに伝えたいこと

「森・川・人の繋がり図」

「魚を守るには川を、川を守るには山を」
という思いから始まった植林事業



5月 自身初参加
郡上市明宝の皆伐地に広葉樹7種1200本を植林した
「魚を守るため」
「川を守るため」という思いに協力したいと感じた。

一方で・・・
郡上地域でもシカやカモシカによる、植林後の被害は避けられない被害になっている
→植林してもシカやカモシカの餌食になっている現状（植林しても育成しないのではないかと・・・）
植林後、森林組合や事業体がネットを張るなど対策はしている。一般参加者もその作業を行うそう（今年度は行わなかった）

対策として
・獣害対策ネットを張る（植林地を事前に囲う方法は？）
・シュルターの設置
→森を「育てる」為に必要なこと。また、植林地を長いスパンで管理しなければならぬと思う
（現在、郡上市内の事業体NPO法人メダセコイアの森の仲間たちの皆さんが毎月保守管理している）

一般参加者にも植林後の現状や管理の仕方を知ってもらえたら良いのではないかと
自分達が植えた木の成長や植林後の様子が一般参加者にも分かるようなシステム作り（過去の植林地の観察ツアーなど）
「植えて終わりではない」という意識を持ってもらう



森林文化アカデミーでの木育サポートに参加して



白鳥町の保育園でサポート実習



木育カフェに参加

森林文化アカデミー林産業コースでは「木育総合演習」で郡上市・美濃市・関市の3つのフィールドで現場スタッフとして学んでいる

出身地である郡上市の保育園・幼稚園で活動中（郡上市では園児による着せりにチャレンジ）

新しい取り組み、木育で、地元へ貢献できるとは思ってなかった
（12月末には母国でサポート予定）
→自分たちが体験できなかったことを今の子供達は幼少期の体験できる
→この時間を共有できることが嬉しく、やりがい



先生方への着せりの指導サポート

木育ならぬ「地域育」で地元へ恩返しをしたい

木育を通して、森や木のことをたくさんの人に知ってもらっている（郡上では園の先生方、園児相手）
この「〇育」という言葉で、長良川流域のことも伝えたい。
→そこで「地域育」という言葉を考えて

郡上に住む子供たちに自分が育った長良川流域について知って欲しい。「誇り」「自慢」に感じて欲しい。
森と川と人の繋がりの中で人が育まれる仕組みができたらしい

最近では・・・
郡上市内の学校で、流域の資源や伝統に触れる取り組みも増えてきた。
→将来的には、「伝えること」、「残すこと」に関わり、流域文化を守っていくような存在になりたい。



伝統漁法「友釣り」の後継者として表彰を受けた

「長良川流域が大好きです」

長良川流域のフィールドでたくさんのことを経験、体験し学びました。当たり前に見てきた流れの中に存在した「森と川と人」の繋がりを。それらを学び、関わるのが喜びであり、ある意味「使命」のように感じました。
長良川の流れる水も清らかな水を選んでいきます。時には荒れ、人々の生活に恐怖を与えることもあるかもしれませんが、川は季節が変わるごとに何度も姿を変えます。生息する生き物も変化します。流域に住む人々も変化します・・・
しかし、この特別な川に存在する、特別な文化は変わらず流れて欲しいと考えています。かつて長良川流域で「森・川・人」の繋がりを築いてくれた先人の思いは無くしてはいけないと感じています。



大好きな長良川で友釣りを楽しむ